

第6次小田原市総合計画評価の振り返りと今後の評価について

- 1 第6次小田原市総合計画評価について
- 2 総合計画審議会からの評価に関する主な意見
- 3 第6次小田原市総合計画評価における課題と成果

1 第6次小田原市総合計画評価について

- 第6次小田原市総合計画では、位置付けた事業を**毎年度評価するとともに、3年ごとに実行計画を見直し**していくこととした。
- 評価実施の目的は、P D C Aサイクルを回し、**効果的・効率的なまちづくりを推進しながら、社会状況の変化に合わせ政策の方向性を柔軟に見直し**ていくことである。
- 事業所管課による内部評価を行い、総合計画審議会による外部評価を経て、評価結果全体を公表しながら事業実施や予算編成へ反映した。

○ 第6次小田原市総合計画「2030ロードマップ1.0」におけるPDCAサイクル

・令和3年度 総合計画(実行計画)の策定及び予算編成……Plan(計画)

・令和4年度～ 事業実施……Do(実施)

・令和5年度～ 評価・検証……Check(評価) → Action(改善)



2 総合計画審議会からの評価に関する主な意見

- 総合計画審議会では、各委員の立場から個別施策等への意見のほか、次のとおり評価に係るご指摘をいただいた。

評価方法

1

- 目標値と達成率を数値化し、総合評価をA～Dとしたことで評価内容がわかりやすい一方、総合計画評価には定性的な要素も加味しているため**全体を通した統一性が薄い**。
- 取組がどのように目標値へ寄与しているか、評価を上げていくには何をしていくのかが見えると良い。
- 外部評価において厳密さに言及しすぎると事業所管課の負担となり「評価疲れ」となる。**評価の簡素化を検討すべき**。

目標（KPI）と取組の関係性

2

- 設定した目標（KPI）が**施策の進捗に対して的確か改めて考える必要がある**。
（実績値が自然環境の影響を受けやすい目標の設定は職員の努力ではどうにもできない等）
- 毎年度の評価には適さない目標（KPI）もあるのではないかと。（数年に1回しか数値を把握できない）
- 今後の計画策定時には、目標（KPI）と取組（各施策）の因果関係を検討して設定すべき。

計画体系

3

- 「重点施策」と「施策・詳細施策」の重複があり、**計画全体の体系がわかりづらい**。
- 一つの事業所管課では担えない分野もあるため、縦割りにならず連携を重視できるとよい。
- 今後の計画策定時には、**市民にわかりやすい計画体系を求めたい**。

3 第6次小田原市総合計画評価における課題と成果

- 第6次総合計画では、総合計画の評価を初めて実施した。
- 実際に評価を実施したことで得られた課題と成果を次のとおりまとめた。

課題

- 評価の統一性の確保
- 評価実施による全庁的な事務量の増加
- 目標（KPI）と取組の因果関係の整理
- 市民へのわかりやすい計画体系

成果

- 事業所管課が自らの事業を計画全体の中で振り返ることで、まちづくりの一端を担っていることを再認識できた
- 施策の進捗を測るにあたり、目標（KPI）と取組の関係性をより一層考える機会となった
- 施策の必要性を改めて考え、課題と今後の方向性を再認識できた

次期計画での評価方法に関する事務局の考え方

<評価方法>

- ◆ 評価方法の簡素化を検討するなど、これまでの3年間における課題や成果を踏まえた評価方法とする

<目標（KPI）と取組の関係性>

- ◆ 目標を設定するにあたっては、計画策定の段階から取組との因果関係や適切性などを考慮して設定する

<計画体系>

- ◆ 将来都市像の実現に繋がり、市民に対してわかりやすい計画体系とする

➤ 上記の「事務局の考え方」に対する、総合計画審議会の意見を求める

- 審議会からの意見を踏まえ、第7次総合計画第1期実行計画の指標設定や評価方法を検討し、第3回会議で諮問予定の「第7次小田原市総合計画第1期実行計画行政案」において、その方法をお示しする